

PRAEVIDENTIA DAILY (2月19日)

昨日までの世界：BoEはタカ派、日銀はハト派度後退、Fedはタカ派度後退？

昨日は、ドル/円が FOMC 議事要旨がややハト派的な内容となったことを受けて、米中長期債利回りの低下と共に 119.25 円近辺から一時 118.52 円へ下落したのが特徴的だった。FOMC 議事要旨では、多くの参加者が時期尚早な利上げは景気回復に水を差すため、ゼロ金利をより長期間維持する方向に傾いていたことが示されたことから、年央近辺とみられていた利上げ開始時期予想の後ずれに繋がり、米 2 年債利回りは 7bps 程度低下した。また、早ければ次回 3 月 FOMC で削除されるとみる向きもあった「忍耐強くられる」という FOMC 声明文の表現についても、削除すると利上げ開始時期が不適切に狭い時期に絞り込まれてしまうと多くの参加者が懸念していることも示されたほか、ドル高の輸出抑制リスクも指摘された。とは言え、現在のところドル安は限定的に留まっている。今後景気指標が強くなれば、こうした議論は再び強気派、タカ派に転じる可能性も残っているためとみられる。

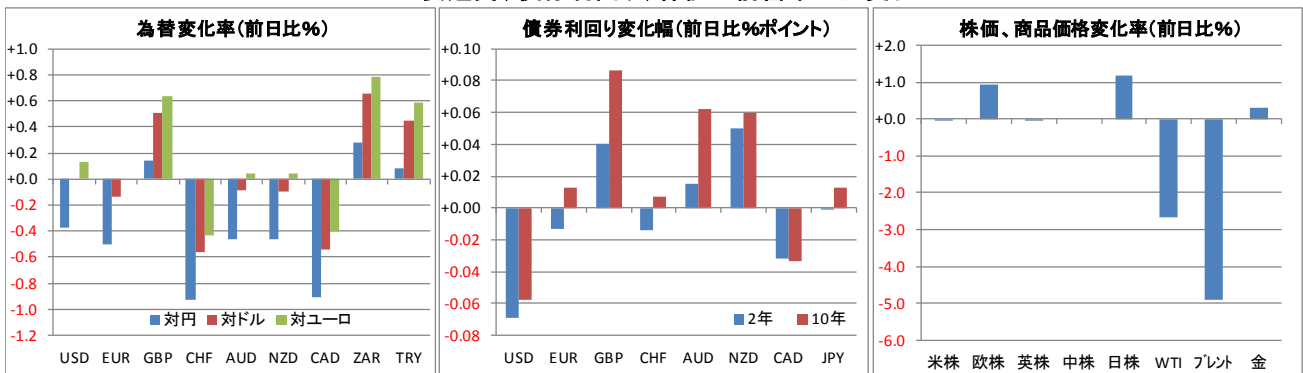
日銀決定会合では、会合終了後の声明文で金融政策スタンスの変化は示されず、追加緩和姿勢が示されなかったことから黒田総裁記者会見に向けドル/円は 119.20 円前後から 119 円割れへ軟化していた。記者会見でも、物価の基調に変化がなく、総裁は積極的に何かをやる必要ないとも述べた。但し、追加緩和を受けた円安は経済にマイナスとの事前報道については否定したかたちでとなったことが好感されたためか、ドル/円はその後再び 119 円台前半へ持ち直し、市場では追加緩和期待が維持されているようだ。

ユーロは、ギリシャが 19 日朝にも最大 6 か月間の融資延長申請を行うとの報道から、ギリシャ懸念が後退しギリシャ国債利回りが低下したが、既に前日にギリシャ問題解決に向けた楽観論が高まり織り込まれていたためか市場の反応はみられず、むしろユーロ/ドルは 1.14 ドル丁度近辺から一時 1.1332 ドルへ下落していた。但し FOMC 議事要旨を受けたドル安により 1.14 ドル丁度近辺へ反発、結果的にはほぼ横ばいとなった。

ポンドは、英労働市場統計で失業率が 5.7%と前月および市場予想 (5.8%) を下回り、週平均賃金 (前年比の 3 か月平均) が前月の 1.8%から 2.2%へ加速したことを受けてポンドが対米ドルで 1.53 ドル半ばから 1.54 ドル台前半へ上昇した。BoE 議事要旨内容も、金利据え置きは 9 対 0 の全会一致で予想通り前回と変わらずだったが、2 委員が据え置き決定は微妙なバランスで、年内利上げの可能性があると議論していた事が明らかになるなどタカ派的な内容で、ポンド買い材料だった。更に、米 FOMC を受けたドル安も重なり、一時 1.5478 ドルへ続伸した。対ユーロでも、0.74 ポンド台前半から一時 0.7344 ドルへ上昇、2008 年 1 月以来のユーロ安ポンド高水準となっている。

南アランドは、南ア CPI が前年比+4.4%と前月から大きく低下し南ア準銀のインフレ目標の中心値 (+4.5%) を若干下回ったが、発表に向けて既にこれを織り込むかたちで下落していたため、発表後はむしろランド買戻し基調となった。そして FOMC を受けたドル安を受けてランドは対ドルで上昇、対円でも強含みとなっている。

主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化



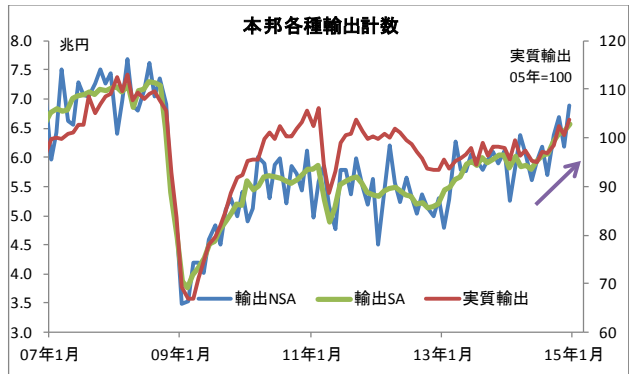
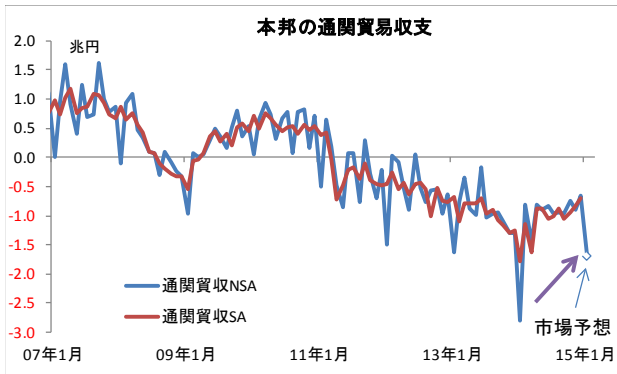
きょうの高慢な偏見：円安→貿易赤字縮小→円安圧力低下のブーメラン

きょうの注目通貨：USD/JPY ↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
本邦 1 月通関貿易収支・季節調整前・円	8 : 50	-6652 億	-1 兆 6908 億	
同輸出前年比		+12.8%	+11.9%	
同輸入前年比		+1.9%	-4.8%	
米新規失業保険申請件数	22 : 30	30.4 万件	29.3 万件	
米 2 月フィラデルフィア連銀製造業サーベイ	0 : 00	6.3	9.3	

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は材料が少ない中で、ドル/円は FOMC 議事要旨を受けた米株価・中長期債利回りの今後の動向を睨んだ展開となろう。本邦では 1 月貿易収支が発表される。通常 1 月は季節的に貿易赤字が拡大し年間で最大となる傾向があり、今回も 1.7 兆円の赤字が予想されている。もっとも、円安や海外景気回復を受けて輸出が回復基調となっていることから、貿易赤字も昨年以降縮小傾向となっており、この面から円安圧力が弱まっている(下図を参照)。米フィラデルフィア連銀サーベイは年末以降の急悪化からの改善が予想されているが、既発表の NY 連銀分は予想を下回っているなど、米国全体の製造業景況感のモメンタムはあまり強くなく、ドルを大きく牽引する材料とはならなそうだ。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。
 当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者(投資助言・代理業)関東財務局長(金商)第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641